

近年、世界各地で異常気象が起り、さまざまな自然災害が発生しています。しかしこれらの自然災害は、人間がコントロールすることは不可能です。さまざまな災害から身を守り、被害を最小限にとどめるためには、防災に必要な知識や備えが大切です。現実を見つめ、今、一人ひとりができることを考え行動につなげましょう。

1 自然災害を教訓に

日本は、世界でも有数の地震大国です。また、台風や豪雨などによる洪水や土石流、地すべり、崖崩れなどにより、毎年、多くの被害が発生しています。

考えてみよう 近年、大きな被害をもたらした自然災害をあげてみましょう。



出典：岩手県山田町



撮影：国際航業株式会社・株式会社パスコ



写真提供：国土交通省 熊本県錦町

2 災害への備え

自然災害そのものは防ぐことはできませんが、日頃から災害時の対応を考えて住まい方を工夫することで、災害による被害は軽減することができます。災害の怖さを知り、被災後の状況をイメージして、備えの大切さに気づくことが防災の第一歩です。

確認してみよう 家で行っている対策はどれですか。□の中に○印をつけましょう。

- ハザードマップで地域の危険箇所や避難場所を確認している。
- 消火器を用意している。
- 部屋の中の家具等に転倒防止対策をしている。
- 災害時の連絡方法などについて、家族と話し合っている。
- 非常食などの備蓄や非常持ち出し品などを用意している。



3 自分の命は自分で守る

(1) ハザードマップを活用しよう

各自治体では、地震や津波、洪水などが発生した場合に備えて、ハザードマップを作成しています。ハザードマップを活用して、自分たちが住んでいる地域の特性を把握して、万一の時に備えましょう。

(2) 帰宅ルートを考えよう

大きな地震が発生した場合などには、交通機関が不通になることがあります。このため、徒歩で帰宅するルートや一時避難する場所などについて考えましょう。

考えてみよう 帰宅ルートを考えてみましょう。

(例) 学校 ⇒ ○○通り ⇒ ××通り ⇒ △△通り ⇒ ◇◇通り ⇒自宅
(役立つ施設) (コンビニ) (□□公園) (警察署) (ガソリンスタンド)

ルート1:

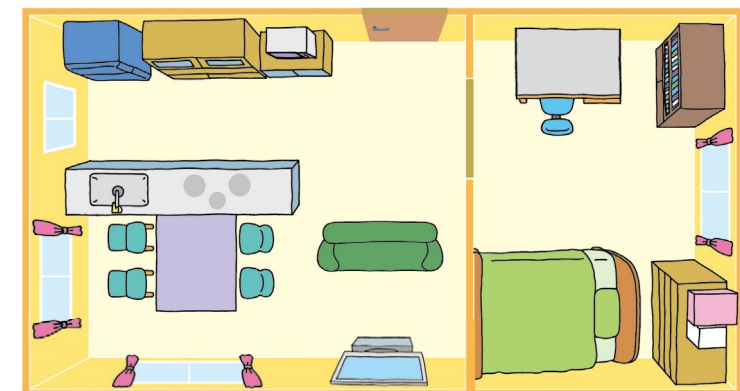
ルート2:

※災害時に通行止めになったり混乱が生じたりする恐れが高いルートは、できるだけ避けましょう。

(3) 家の中の安全対策をしよう

大きな地震では、倒れてくる家具や家電などの下敷きになって大ケガをすることもあります。

確認してみよう 部屋の中に安全な空間を作るためには、どのようなことができますか。まずは、イラストを参考に考えてみましょう。



(4) 家族で防災会議をしよう

自然災害は、家族全員が揃っているときに起こるとは限りません。災害が発生した場合に備えて、日頃から、家族で話し合っておくことが大切です。

考えてみよう 家族の防災会議で確認しておくべきことを考えてみましょう。

(5) 飲料水や食料品などを備蓄しよう

大災害により、電気やガス、水道などが止まっているなかで生活せざるを得ないこともあります。備蓄品や非常持ち出し品を備えておきましょう。

考えてみよう 大きな災害が発生すると、電気や水道などのライフラインが止まってしまうことがあります。特に水は、飲料水のほか、食器の洗浄やトイレ、洗濯などにも必要です。水をできる限り使用しない工夫として、どのようなことが考えられますか。

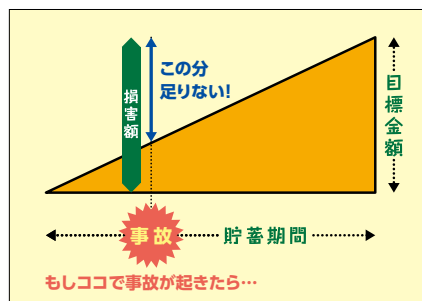
(6) 自然災害リスクへの対処法

保険とは、みんなでお金を出し合い、誰かが事故にあったときは、その出し合ったお金で補償するしくみです。

①貯蓄と保険の違い（貯蓄は三角、保険は四角）

保険は、いつ起こるかどうかわからないけれど、いざ発生すると、損失が大きくなるリスクへの備えとして向いているといわれています。

■貯蓄の場合



貯蓄は、事故や災害が起きた時に、十分な資金を準備できているとは限らない。

■保険の場合



保険は、保険期間を通じて、必要な資金を準備することができる。

②公的保険と私的保険

保険には、国が制度として運営する公的保険（健康保険、国民健康保険、国民年金、厚生年金保険）と、民間の会社が運営する私的保険（生命保険、損害保険）とがあります。

私的保険のうち、主として、人の生存・死亡に備える保険を（ ）、事故や災害による損害に備える保険を（ ）といいます。

③すまいの保険

万一の災害から、住まいを守る損害保険には、火災保険と地震保険とがあります。選択肢のア～エの災害は、火災保険と地震保険のいずれかで備えることができます。表に選択肢を記入し、すまいの保険について、まとめましょう。

	保険支払いの対象となる災害
火災保険	
地震保険	

【選択肢】 ア. 火災 イ. 台風・大雨・洪水 ウ. 地震・津波 エ. 噴火

4 自分たちの地域は自分たちで守る（「自助・共助・公助」の連携）

次の文章の（ ）にあてはまる語句を選択肢から選び、記号で答えましょう。

災害発生時には地元自治体や消防機関などからの公的支援（ ）が行われますが、「すぐに」「すべてに」届けることは困難です。このため発災直後には、自分の命は自分で守ること（ ）とともに、自分たちの地域は自分たちで守ること（ ）が被害を防止・軽減するためには、とても重要となります。

【選択肢】 ア. 自助 イ. 共助 ウ. 公助

考えてみよう 学校にいるときに大きな災害が発生した場合、自分たちが地域の中でできることは何でしょうか。また、そのために、日頃からできることを考えてみましょう。